

CASBEE[®]新潟 | 評価結果 |



- 使用評価マニュアル: CASBEE新潟マニュアル、CASBEE-新築(簡易版)2008年版
- 使用評価ソフト: CASBEE新潟(v.1.1)

1. 建物概要

建物名称	新潟大学(五十嵐)学生寮(六花寮)新営工事	
建設地	西区	
用途地域	第一種中高層住居専用地域	
建物用途	集合住宅	
竣工年	2011年3月 予定	
敷地面積	11,529 m ²	
建築面積	2,658 m ²	
延床面積	7,243 m ²	
階数	地上4F	
構造	RC造	
評価の段階	実施設計段階評価	
評価の実施日	2010年7月10日	

2. CASBEE新潟の評価結果

	A	$BEE = \frac{Q \text{ 建築物の環境品質}}{L \text{ 建築物の環境負荷低減性}} = \frac{59}{30} = 1.9$
S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★		

3. 新潟市の重点項目の評価

項目	平均スコア	評価	項目	スコア
1. 長寿命化の取組み 誰もがずっと安心して生活するために	3.2		バリアフリー	3.0
			維持管理	3.5
			更新性	3.2
2. 地震への取組み かけがえのない人命、財産、思い出を守るために	3.1		耐震・免震	3.8
			信頼性	2.4
3. 大雨への取組み 大雨につよまぢづくりのために	3.0		雨水排水負荷低減	3.0
4. 自然エネルギー利用の取組み 地球温暖化対策のために	4.0		建物の熱負荷抑制	5.0
			自然エネルギー利用	3.0
5. 資源循環の取組み 持続可能な循環型社会づくりのために	4.0		節水	3.0
			リサイクル材の使用	5.0
			再利用可能性向上	4.0
6. 水と緑を活かす取組み 豊かな田園空間を次世代に引き継ぐために	3.5		生物環境の保全・創出	3.0
			敷地内温熱環境の向上	4.0
7. 新潟のまちなみへの取組み 地域の魅力を伝承・創造していくために	5.0		まちなみ・景観への配慮	5.0
			地域性への配慮・快適性の向上	5.0

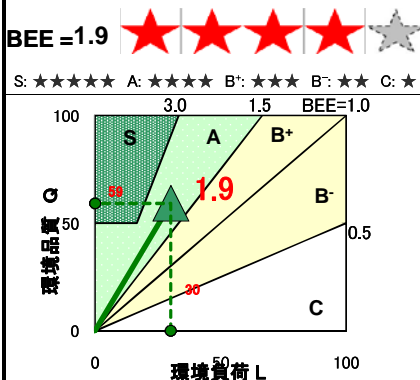
4. 新潟市の重点項目の配慮事項

- ・外内装の仕上材には防汚性の高い建材や塗装を採用しており、維持管理を容易に行えるよう配慮した。
- ・建物のRC躯体の耐用年数は、住宅性能評価等級2とし、信頼性において標準よりも高い数値としている。
- ・建設資材にリサイクル材を出来る限り採用している。
- ・傾斜地である既存の敷地環境を壊すことなく松林等の植栽を残し、周辺環境の保全に努めている。
- ・大学構内の既存寮との調和を図り、隣接する既存寮にあわせた外観としている。

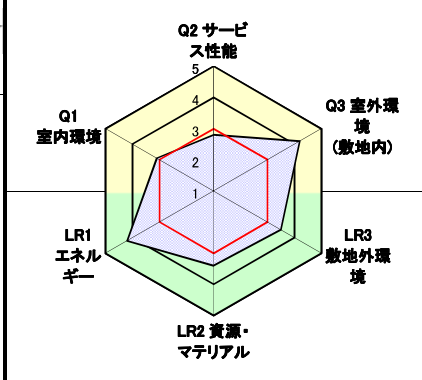
CASBEE[®]新潟 | 評価結果内訳

■使用評価マニュアル: CASBEE新潟マニュアル、CASBEE-新築(簡易版) 2008年版 使用評価ソフト: CASBEE新潟(v.1.1)

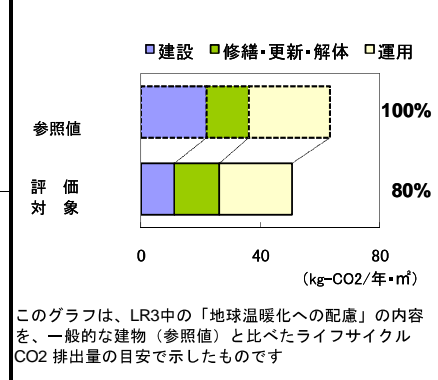
2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)



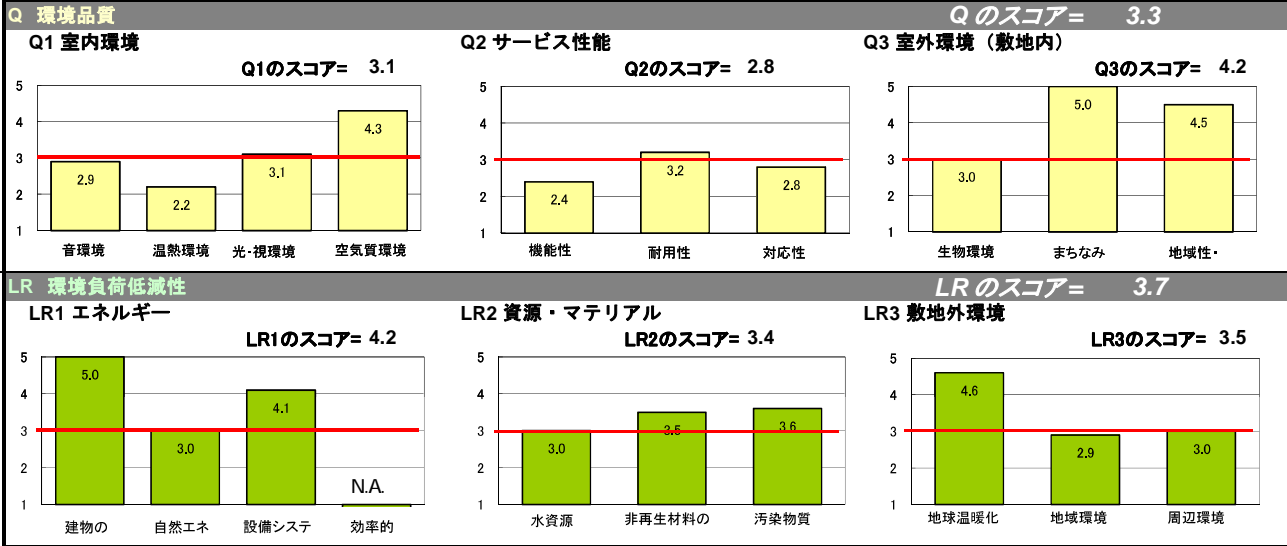
2-2 大項目の評価(レーダーチャート)



2-3 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)



2-4 中項目の評価(バーチャート)



2-5 設計上の配慮事項

<p>総合</p> <p>「安全・安心・快適」「社会性」「異文化交流」をコンセプトとした学生寮の計画。シンプルで快適な個室10室を1単位として共同生活を行う。建物は、高断熱、省エネ化による温熱環境の向上を図ると共に、恵まれた自然や周辺環境に馴染む設計を行った。</p>	<p>その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・建設コスト、維持管理コストを縮減する部位・部材の検討を行い採用した。シート防水とし、コストを抑え将来の改修工事時に対応しやすい工法とした。電気室を建物内に設置する事で二次側の電気工事費を抑えている。
<p>Q1 室内環境</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音環境では乾式遮音間仕切を使用し、Dr-50を確保している。 ・光・視環境では昼光率は2.25%のレベル5としている。 ・JIS規格のF☆☆☆☆以上の建材を使用しているため、化学物質の汚染の影響は少ない。 	<p>Q2 サービス性能</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各個室の天井高さは2.5mとし一定の広さを確保している。 ・内装計画ではインテリアパースにて事前検証を行った。
<p>LR1 エネルギー</p> <ul style="list-style-type: none"> ・熱負荷抑制において日本住宅性能表示基準「5-1エネルギー対策等級」における等級4に相当するためレベル5を確保した。 	<p>LR2 資源・マテリアル</p> <ul style="list-style-type: none"> ・非構造材料におけるリサイクル材は3種類以上使用 ・RC造であることを生かし躯体と仕上材が容易に分別可能 ・有害物質を含まない建材を多く使用している。
	<p>Q3 室外環境 (敷地内)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・松林等の既存環境を残し、周辺環境の保全を行う。 ・既存寮にあわせた外部仕上とし、管理棟を新しいシンボルとしてまちなみ景観の向上に努めている。 ・中間領域(中庭)を計画し、快適な生活環境の向上に努めた。
	<p>LR3 敷地外環境</p> <ul style="list-style-type: none"> ・男女棟を分割して配置、建物間隔を広くすることで、夏季の卓越風向に対する建築物の見付面積を低減している。 ・既存樹木による敷地内の日影形成に努める。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される